

隣家の嫁

第六卷 美人妻の卑猥なヌードポーズ

後編

海老沢 薫 著

内 容

■ 著作権について

■ ま え が き

■ 第一章 白昼のベランダでHなマネする若妻

■ 海老沢薫 B L O G

■ 海老沢薫 Web連載小説

■ 著作権について

「隣家の嫁 第六卷 美人妻の卑猥なヌード
ポーズ 後編」(以下本書と表記する)の著作
権は「海老沢薫」にあります。

・ 本書のすべての内容は、日本の著作権法、
及び国際条約によって保護されています。

・ 「海老沢薫」が事前に書面をもって許可し
た場合を除き、本書の一部、または全部を、

あらゆるデータ蓄積手段(印刷物、電子フア
イル、ビデオ、テープレコーダー)により複

製、流用、転載、転売することを固く禁じま
す。

・ 著作権の侵害につきましては、著作権法第
61条などの罰則がありますのでご注意ください
い。

■ まえがき

マンションの隣の部屋に住む主婦の坂下
に脅され、ヌード撮影会のモデルを務めること
になった七海は、集まったご近所の主婦達の
前で次々と卑猥なポーズを披露させられるこ
とになった。

そうして、撮影が一段落すると、撮影会の
主宰者である坂下は、なんと七海に糸纏わ
ぬ姿のままベランダに出るよう命じたのだっ
た。

羞恥に全身を震わせながら仕方なくベラン
ダに出た七海は、そこで再び恥辱のポーズを
披露させられ、マンションの外の通りを歩く
通行人にその破廉恥な姿を目撃されてしま
う。

慌てた七海はすぐに部屋の中に戻ろうとす
るが、窓はいつの間にか鍵を掛けて閉めら
れており、七海は白昼のベランダに素っ裸の
ま放置される。

すると、坂下は部屋の中央から一枚のメモ
を七海に見せたのだった。メモにはあまりに屈

辱的な命令が記されており、白昼のベランダで途方に暮れる七海。
分かったわよ、やればいいいでしょ・・・
やがて七海は心の中で必死に強がると、外を向いて自らの手で秘部を弄り始めたのだった
「まさか本当にお外でオ○ニーするなんて、幾ら何でも変態過ぎよね」
「同じマンションにこんな淫乱な女が住んでいるのかと思うと、なんだか嘆かわしいわ」
「それにしても、ここまでやるなんて、よっぽど欲求不満なのね」
部屋の中から様子を窺っているご近所の主婦達は皆呆れた表情で美人妻の痴態を眺めた。
「ちよつとあの人、あそこでオ○ニーしているんじゃない」
「ヤダあ、信じられない。よくあんなマネができるわねえ。絶対変態よ」
「この動画ネットに上げちゃおうかなあ」
通りに立っている野次馬達も同じように呆れた様子で七海のいるベランダを見上げていた

暫くして、マンションの外の通りにいる通行人や部屋の中から鑑賞しているご近所さん達の前で絶頂する美人妻。しかし、これで七海の羞恥地獄が終わったわけではなかった。七海が快感の余韻から目覚めると、部屋の中にいる坂下は美人妻に対しさらに過酷な命令を突きつけ、白昼のマンションのベランダに放置された哀れな美人妻は、どうしようもない屈辱に人としての尊厳さえ奪われていくのだった。

■ 第一章 白昼のベランダでHなマネする若妻

七海はマンションのベランダに素っ裸で座り込んだまま、部屋の中を呆然と見つめていた。窓の向こう側では同じマンションに住む大勢のご近所の主婦達が意味深な笑みを浮かべながら自分の方にスマホを向けている姿があった。そして、窓のすぐ傍にいる隣家の住人、坂下は恐るべき命令の記されたメモ用紙を窓越しに七海に向かって掲げていた。坂下の家のベランダに素っ裸のまま締め出され、放置されてしまった七海は、ついにそのはしたない姿をマンションの外の通りを歩く通行人に見つかってしまったのだ。七海は慌ててガニ股ポーズを崩し、すぐに部屋の中に戻ろうとしたが、いつの間にか窓は閉められ鍵を掛けられていたのだ。そして、坂下はベランダで羞恥に喘ぐ七海に向かって、

部屋のの中に入れる条件として、その場でオ○
ニ―するようメモ用紙に記して命じたのだっ
た。
七海がいつまでもベランダで躊躇っている
と、坂下はまた新たなメッセ―ジを記したメ
モ用紙を窓越しに掲げて七海に見せた。
『オ○ニ―する時は、外の方を向いてやりな
さい！』
坂下はメモ用紙を掲げながら、ベランダで怯
える七海を見て不敵な笑みを浮かべていた。
「そんなこと・・・」
新たなメッセ―ジを読んだ七海は、顔面蒼白
となつて全身を小刻みに震わせた。
ベランダに全裸でいるだけでも死ぬほど恥
ずかしいのに、沢山の人や車が行き交う外を
向いてオ○ニ―をするなど考えられなかった
お願い、許して・・・。
七海は部屋の中の坂
下に縋るような目を向け心の中で必死に懇願
した。しかし、その姿は却つて坂下達の加虐
心を煽る形となり、坂下は窓際に仁王立ちし

たまま、決して七海の願いを受け入れようと
はしなかった。
酷い人だわ・・・七海は心の底から坂下
の事を恨んだ。そして、坂下の命令に従わな
い限りもうどうにもならないと悟った七海は
部屋の中にいる坂下や他のご近所の主婦達を
恨めしそうに一瞥すると、そのままゆっくり
と体を反転させ外に体を向けたのだった。
眼下には、さつき裸を見られてしまった通
行人の主婦がまだこちらを見上げて立って
るのが分かった。ああん、どうしよう、恥
ずかしい・・・七海はベランダに素っ裸で座
る恥知らずな姿を見知らぬ通行人に見られ
ている事が恥ずかしくて堪らなかった。そし
て思わず目を閉じ、暫くの間じつとその場
に座っていた。すると、背後から突然窓を叩
く音が響き、坂下達が早くオニーするよう
の途中で叫んでいる声が聞こえてきたのだ
った。
分かったわよ、やればいいんでしょ・・・
七海は心の中で必死に強がり自らを奮い立

。

。

、

、

せると、両脚をゆっくりと左右に開いていつた。そして、右手を股間に伸ばして秘部を弄り、左手は胸元へと伸ばし、豊かな乳房を揉みしだいた。

「ああん、ああん」

マンションのベランダに素っ裸で座り、白昼堂々オニーしている事が信じられず、言い知れぬ背徳感に七海はすぐに喘ぎ声を漏らし、て悶えた。

マンションの外の通りから見上げている主婦はスマホを上に向けて翳し、ベランダで全裸オニーする美女の姿を撮影している様子だった。部屋の中にいる坂下達七海の姿を面白そうに眺め、若い美人妻が堕ちていく様を楽しんでいた。

「まさか本当にお外でオニーするなんて、幾ら何でも変態過ぎよね」

「同じマンションにこんな淫乱な女が住んでいるのかと思うと、なんだか嘆かわしいわ」

「それにしても、ここまでやるなんて、よつ
ぽど欲求不満なのね」
七海より年上の主婦達は、ベランダで全裸オ
○ニーに耽る若妻の後ろ姿を眺めながらそう
罵った。
マンションの外の通りではいつしか二人三
人と通行人が立ち止まって七海の居るベラン
ダを見上げていた。皆、驚いた表情を浮かべ
た後、興奮した様子で目をギリギリさせなが
ら全裸の美女をスマホで撮影した。
「ちよつとあの人、あそこでオ○ニーしてい
るんじゃない」
「ヤダあ、信じられない。よくあんなマネが
できるわねえ。絶対変態よ」
「この動画ネットに上げちゃおうかなあ」
通りに立って見上げている野次馬達は主婦や
○Lなどの女性ばかりで、スマホで撮影しな
がら破廉恥な同性を罵った。
「ああん、ああん」

ベランダで全裸オ○ニーに耽る美人妻の耳元
まで野次馬達の罵声がかすかに聞こえ、七海
は目を閉じたまま全力で性感帯を弄った。そ
れは、一刻も早く絶頂してこの屈辱的な行為
を終わらせたいという思いと、見ず知らずの
通行人達に恥ずかしい姿を見られて興奮して
しまっているせいだった。
「あらあ、だんだん激しくなってきたわよ
へ笑」
「さすがにベランダでここまでされたら引く
わへ笑」
部屋の中から七海のオ○ニーショーを鑑賞し
ているご近所の主婦達は、若妻のあまりに激
しいオ○ニーに驚いた様子で、イク瞬間を見
逃すまいと皆目を凝らした。
「ああん、もうダメえ、イクっイクっイクっ
イクううう」
七海はついに断末魔の叫び声を上げると、下
半身を上下に激しく痙攣させ、そのままガッ
クリと項垂れた。

「キャットー」
マンションの外の通りからベランダを見上げ
ている野次馬達の悲鳴が辺りに轟くと同時に
家の中からも近所の主婦達の悲鳴が響いた
「あの女、とうとうイッたみたいよ」
「なんか凄いいキッぷりだったわね。私、ビ
ックリしちゃった」
通りにいる野次馬達は七海のイク瞬間を正面
から目撃して興奮が抑えきれない様子で、暫
しベランダの方を見上げたまま、恍惚とした
表情を浮かべる美女の姿を眺めていた。
一方、部屋の中にいる近所の主婦達は、
七海がイク瞬間を正面から拝む事はできなか
ったが、素っ裸の美人妻がベランダでイク姿
を目撃して、こちらにも興奮している様子だっ
た。
「とうとうイッたわよ」
「ベランダでもイケるなんて、やっぱり若い
って罪なことねえ」

ご近所の主婦達は、ガツクリと項垂れた若妻
の後ろ姿を眺めながら呆れたように呟き合っ
た。
それから暫くして、快感の余韻から目覚め
た七海は、自分が他人の家のベランダで全裸
オ○ニーしてイッてしまったことを思い知り
激しい羞恥に襲われた。そして、眼下に目を
向けると、数人の通行人が立ち止まってこち
らを見上げている姿が見え、七海は居たたま
れない気持ちになった。こんなのもうイヤあ
あ・・・。羞恥に耐えられなくなった七海は
約束通り部屋の中に入れてもらおうと慌てて
後ろを振り返って窓を叩いた。
しかし、部屋の中にいる坂下達は不敵に微
笑みながら全裸の美人妻をただ見つめるだけ
で、一向に窓を開けようとはしてくれなかつ
た。どうして開けてくれないの・・・私はち
やんと命令に従ったじゃない・・・。七海は
心の中でそう叫びながら何度も窓を叩き続け
た。

『そんな窓を叩かないでちょうだい！家の
中に入れて欲しいなら、もう一度今度は立っ
たまま手すりを掴んで外を向いてオ○ニーし
なさい！』
なんと部屋の中にいる坂下は、再び恐ろしい
命令を記したメモ用紙を窓越しに七海に見せ
てきたのだった。
「そんな・・・」
七海は部屋の中にいる坂下に向かって思わず
呟いた。
ベランダに立って外を向いてオ○ニーすれ
ば、さっきよりもっと大勢の通行人に気づ
かれてしまう恐れがあった。そんなの絶対無
理よ・・・。七海は坂下の常軌を逸した命令
に憤りを覚え、部屋の中にいる坂下を睨みつ
けた。
すると、坂下は七海の反抗的な態度に苛つ
いた表情を浮かべ、いきなりカーテンを閉め
たのだった。突然部屋のの様子が見えなく
なってしまった。七海は動揺し、窓を何度も叩

き続けたが、カーテンが開く事はなかった。
どうしよう・・。七海は、完全にベランダ
に素っ裸のまま締め出されてしまったことを
思い知り、坂下を睨みつけて彼女の感情を害
してしまったことを心から悔やんだ。
窓を叩くのを止めた七海は、陽が降り注ぐ
ベランダに裸身を隠すように座ると、これか
らどうすれば良いのか、暫し考え込むのだっ
た。

■ 海老沢薫 B L O G

・ ・ ・ 海老沢薫の最新作の出版情報や、そのほか各種コンテンツ情報などを配信。

<http://kaoruebisawa.blog.fc2.com/>

■ 海老沢薫 Web 連載小説

『 清楚な美人妻 彩 27 歳 絵画モデル編 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=9281>

『 清純派女優 結衣 24 歳 ー 国民のペットへと堕ちていくヒロイン ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18802>

『 清純派女優 結衣 24 歳 ー 女神の憂鬱 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=26675>

『 女教師 玲奈 25 歳 ー 女性教諭の前代未聞の不幸事 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=17186>

『 美人社長 里帆 26 歳 ー 若き女社長のプライドを砕く屈辱の契約 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18885>